

## 1年を振り返って



2005～2006年度  
地区クラブ奉仕委員会  
委員長 大谷 眞夫

この1年を振り返ってみますと、まずは山中ガバナーの積極的な会員皆さんへの姿勢を我々が充分理解して活動し得たかと反省するところ多々あります。この姿勢を是非白鳥年度にも引きついで頂きたいと念じています。全体的にはガバナーの意向を得て、地区会員の皆さんへは出来る範囲でアプローチ致しましたが、大きな動きについて報告致します。

- 1) 合同セミナー(7/24)は大勢の皆様に参加して頂き、目的を達成したと考えています。更にこれを深めるよう取り組みして頂きたい。
- 2) 情報研究会(10/10)は2790地区で全体会議で開催致しましたが、約400名の参加を頂き、渡邊パスとガバナーの基調講演でその成果を頂いたと確信しております。もう少し長い目で評価を頂きたいと思えます。
- 3) 家族の集い(3/7)は第2回の開催で、約150名の会員皆様の参加を頂き感謝致しております。計画・実行は大変ですが、是非長期的に頑張ってくださいと思います。
- 4) 会員増強ですが、委員長以下大分頑張ってきました。結果は5月末で約30名の増加と聞いていますが、会員増強の問題は会員の質・量の議論が常に言われています。次年度でも同じ議論があるかと思いますが、ぜひ頑張ってくださいと祈念致します。会員皆様のご協力を感謝致します。

## 「私の念い」



2005～2006年度  
公共イメージ推進・IT委員会  
委員長 金谷 典幸

前年度を振り返って2つの事を提言したい。1つは、継続性(Continuity)についてです。いま1つは、ロータリアンにロータリーについての基礎知識と、膨大な最新情報の普及が十分かという事です。継続性について、ラビツァ元RI会長のテーマ、「ロータリー2000 Consistency・Credibility・Continuity」私の解釈ですが、一貫した信念の中に、堅実さ、信頼と、継続性が包含された考えだと思っています。

今年度、公共イメージ推進・IT委員会・委員長という役の中で、地区ITの継続が寸断された事を非常に危惧しています。私ごとですが、杉木年度で始めた地区ITの普及について、数地区の失敗例、また他の成功例を私なりに研究し、山中年度で、地区MLの普及により情報普及の効率化、印刷物、郵便物の減少による経済効果の向上等を、3～5年先には、国内では優れたITの地区にすべく、真剣に考え、お願いもしてきましたが、私の力不足で空回りに終わり、何も出来なかったことを反省し、隔靴搔痒の感は否めません。

文字数の関係上これで終わります。ロータリーが益々繁栄する事を心から願っています。

## 1年を振り返って



2005～2006年度  
地区会員増強・退会防止委員会  
委員長 栗原 賢一

今年度は当地区も退会が多数出る結果となる。私自身も地区内数クラブを訪問して会員増強・退会防止に付いての卓話を行いました。増強についてのこれと言った秘策はありません。

現在ロータリークラブの置かれている実情を見ると社会に受け入れられている奉仕活動をしていないし、又ロータリークラブそのものに昔のようなステータスがない。これはRIの増強の方針に対する批判がもしれない。「質のいい人を入れる」から「量」に変わったのではないかと思える感じがする。ロータリークラブを増す事だけに専念してしまえば誰でも良いという事になりかねない。

昔、私がロータリーに入会させられた時(約30年前)はロータリーが「入れてやる」という時代だった。「入会しないか」と言われた時は人間として認められたのだと感じた。だが今は「入って頂く」という時代になり、ロータリアンになっている事に自信もないような時代である。社会がそれ程ロータリーを認めていないような気がする。

地域、各クラブによって事情は違うのでこれという秘策はないが、各クラブが知恵を出して考える必要がある。又、一度退会された人を再入会させる方法も良い。過去にロータリアンだった人が、何らかの理由で退会したが事情が変わって再入会しても良いと考える人は少なくない。この人達はロータリーの事を知っているからロータリーについての説明は要らない。ロータリーの良い点も知っていて友人を求めている場合もある。後は女性会員を入れる事だと思う。そしてクラブの雰囲気良くして退会者を出さないようにする。

当地区でも今年度で二つのクラブが消滅したが、聞くところによるとクラブの会員同士の不和が原因と聞く。人間関係が嫌になり退会する人が出るという事もある。こんな点も残された私共の反省がもしれない。

## 1年を振り返って



2005～2006年度  
地区家族委員会  
委員長 白須賀 まり子

家族委員会委員長として一年間が終わり、ホッとしているのが正直な気持ちです。地区の初めての女性委員長とのことで、名誉でもあります。これが失敗もできないと、緊張しておりました。これ

から続く女性会員の足を引っ張らないようにと、努力して参りました。

家族委員会とは、もともと女性の集いの小委員会が、2年前から委員会に昇格した委員会でありました。私も、女性の集いから実行委員として参加させていただき、副委員長を経て、今年度委員長となりました。先輩方のきめ細やかな指導をいただき、そして、助けていただき、無事任期を終えることが出来ました。

今年度の家族委員会の大きなイベント(『第2回 家族の集い』を3月7日に主催。)に、たくさんの方にお集まりいただき、喜んでいただけたのが、なによりと思っております。いろいろな地区の方々と交流を図り、コミュニケーションをとり、楽しんでいただけたと自負しております。

家族委員会は、新しい委員会でありました。ガバナーによってどんな形態となるか不安定なところでございます。何をロータリーとして求めていくか、ロータリーの基本はどこにおくべきかは、人それぞれだと思います。私は、ロータリアン一人一人の個人生活・社会生活に手と手を取り合って、親睦を図り奉仕の理想を追い求めて行くことだと、感じております。

今年度の山中ガバナーには、家族の集いに快くご協力いただき、大変感謝しております。そして、実行委員の皆様ご協力ありがとうございました。今後とも家族委員会の確かな方向性が見いだされればと、願っております。

2005～2006年度  
地区職業奉仕委員会

委員長 座古 榮夫



地区職業奉仕委員長として、職業奉仕の考え方や意味をロータリアンの皆様に伝えられたかとなると、少し不安が残る一年間でした。企業の目的は一口で言えば利益の追求にあると言われています。健全な経営を行う上で欠かすことはできません。職業を通じて、社会の使命をやりとげる上で利益は欠かせないものになってくるのです。働いて税金を納めているから国の財源が出来るわけですから。職業の品位を保ちながら企業は儲ける努力が必要なのです。世間を騒がせた“村上ファンド”とは大きな違いがあります。ロータリーの職業実践の場こそが倫理観を見据えた信用ある実業人＝ロータリアンの集まりであると言っても過言ではありません。ロータリーの一員である事を誇りに思います。

桜の花は四方の風に吹かれたあと、人生を豊かにする香りを運んで人間を祝福しつつけるそうです。日本の象徴たる桜の花に感謝の心を忘れずロータリアンとして地域社会に貢献して行きたいと思えます。

最後に皆様の御協力に感謝申し上げます。山中ガバナー一年度に地区職業奉仕委員長として参加させていただき本当にありがとうございました。

2005～2006年度  
地区社会奉仕委員会

委員長 並木 幸雄



本委員会では、年度初めの年間事業計画発表、年度末でのこれらの成果を発表していただく各クラブの社会奉仕委員長会議を開催致しております。本年も予定通り開催することが出来ました。それを見聞しますと、20年以上の長期継続の事業、又現在の世相を繁栄してのものも、たとえば少子化解消対策への取り組み等もありました。本委員会は、ロータリー活動の中でもとりわけ広範囲に及ぶ性格を持っておりますが、各クラブともそれぞれ前向きな取り組みには心から感嘆いたしました。次年度へもこの意気込みの継続される事を望みます。

山中ガバナーを始め、各クラブのご協力に感謝いたします。

## 1 年を振り返って

2005～2006年度  
地区 W.C.S.委員会

委員長 永鳥 秀人



本年は活動を始めて20周年の節目を迎えることになりました。

ロータリーの奉仕活動の中で最もエキサイティングなWCS活動を、多くの地区内の先達、先輩達が係り、地区歴史に大きな足跡を残してきた功績は実に大きな意義があると考えます。

本年度の活動報告

1. 地区WCS委員長セミナー及びWCS活動20周年記念パーティー開催
2. 第20次WCS支援視察(RI3860 地区フィリピン)
3. 第1次スリランカ津波復興支援視察(RI3220 地区)
4. レイテ島地すべり災害 仮設住宅供給支援(RI3860 地区)
5. WCS活動20周年記念誌発刊

山中ガバナー及び事務所の皆様、ガバナー補佐の皆様、地区内ロータリアンの皆様には、多くのご支援ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

2005～2006年度  
地区R.F.委員会

委員長 山口 習明



第6回ロータリアン芸術祭

地区大会両日、山中ガバナー、長島パストガバナーをはじめとした地区内ロータリアン、家族の方々より多くの出品を得て、趣味を楽しむロータリーの交流の場として親睦を深めることができました。

ロータリー野球リーグへの支援

2005年4月9日の開幕から地区内9チームでリーグ戦を繰り広げ、11月26日の最終戦で優勝が決定するという熱戦でありました。優勝・千葉西RC、準優勝・浦安RC、3位・千葉若潮RC。

現在地区内9チームで行っていますが、新しいチームを募集しておりますので宜しくお願い申し上げます。

釣り大会等については、下見の段階で終わってしまひまして反省しています。



2005～2006年度  
地区青少年交換委員会  
委員長 齋藤 豊久

委員会の一年間の活動は、先ず応募者の減少に歯止めが係らず、わずか数名を数えるのみでした。各ロータリークラブにおいても、適齢の会員子女が減少している状態、少子高齢がみられ、又会員は子育てが終わり、一段落の状態であること等も減少の一員と考えられます。全国会議にても同様な意見が見られるが、応募者の増加を見る地区もあります。

募集方法の変更により増えています。方法は地区内にある高校へ参加を、各クラブから呼びかけ、各クラブはスポンサークラブに徹して応募するそうです。当2790地区内には、高校の数は約200校以上有ります。地区内には85RCの数もあります。

高校生に世界の風を肌に直に触れさせ、体験させ、世界を知ると共に、日本を、己を知る機会と成るはずです。各クラブの青少年交換に取り組む姿勢の変化を求めたいと思います。ガバナー、カウンセラーを始めとして、05 - 06 年度参加クラブにお礼申し上げます。

## 一年を振りかえって



2005～2006年度  
地区新世代のための委員会  
委員長 渡辺 明

私たちロータリアンが、新世代の人々に何が出来るだろうか？9月の新世代の月間に各クラブを回りながら、このことについて考えました。青少年にあれをやりなさい、これをやりなさい、というよりも、自らが進んで行くことの方が大事なのではないか、ロータリアンが道を説くよりも自らが行動し、より魅力的になることが大切で、その姿を見てロータリーに関心をもってくれればよいのではないかと思いました。

11月に行った新世代の会議では、地区内の様々な青少年活動が報告され、それぞれのクラブがそれぞれの方法で地域に根ざした活動をしております。

ロータリーには、数多くの青少年プログラムがありますが、地区では、その紹介と実施例の案内をし、連絡調整機関としての役割に重きを置き、自画自賛することなく十分な検証と外部評価を受けながら、新世代に対して、その気候風土に合った種を蒔き、手入れをしながら、その大地に根を張り、枝が伸び、実が結んでいければ、私たちの投じた費用と時間、労力は、決して無駄ではなかったと思います。

## 1年を振り返って



2005～2006年度  
地区R.Y.L.A.委員会  
委員長 伊藤 豊

R.Y.L.A.委員長を仰せつから、はや1年が経過しました。「アット云う間」の1年間でした。しかし、思い起こせばその「アット云う間」の1年の中に、実に色々な事がぎっしり詰まっているのが不思議です。

さて次期R.Y.L.A.セミナーは第30回を迎えます。30回(30年間)も開催しているのは、日本国広しといえども当2790地区が最多だそうです。河合委員長をはじめ、5名の新地区委員もすでに動き出しています。私同様河合委員長も涙もろい方なので、2年続けて壇上で委員長が感極まり泣いてしまうかも？

それはさておき、今までの家族的な雰囲気大切に、更なる向上を目指し、30回記念セミナー成功をお祈りしますと共にこの1年間、第29回R.Y.L.A.セミナーに携わって下さった関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。1年間本当にありがとうございました。

次年度(河合 潤委員長)もどうかよろしく申し上げます。

## 「私にとってのインターアクトの4年間」



2005～2006年度  
地区インターアクト委員会  
委員長 坂井 健治

インターアクト地区委員になって3年、委員長として1年あっという間に4年が過ぎました。

平成16年2月に韓国R1第3660地区から9年ぶりに45名の訪日がありました。そして平成17年8月20日、朴受鐵インターアクト委員長と

一緒に総勢41名の訪日を受けました。いずれもインターアクト部員のホームステイをしてもらうことができず、とても残念でした。私どもが国外研修で韓国を訪問する際には2泊3日のホームステイをさせていただいておりますので、いずれ韓国からの訪日の際にはホームステイが出来る様な態勢作りをしていきたいと思っております。8月23日には第39回年次大会が千葉市民会館でホストクラブ県立千葉商業高等学校・スポンサークラブ千葉西ロータリークラブ・参加者256名で開催されました。10月7日～10日、第18回国外研修を参加者28名で行いました。本年度は訪問校が釜山情報観光高等学校に変わり、例年とは違った体験研修が出来た事と思っております。本年度は「日韓友好地区結縁同意書」の締結期限の年でしたので、4月19日～21日に山中ガバナーと一緒に第3660地区第36回年次大会に参加して参りました。大会初日終了後、金元祚ガバナーと山中ガバナーの間で無事に友好地区結縁同意書が取り交わされ2009年4月まで期間が更新されました。4回の国外研修の間に第3660地区の多くのロータリアンと友情を深めることができ、これからも日韓親善の為に役立てようと思っております。5月に開催される予定の指導者講習会が中止になり非常に残念な気持ちで1年を終えることになりましたが、今後は新委員長のもと新しいインターアクトとして頑張っていきたいと思っております。

最後に長年にわたりご協力いただきましたロータリアンの方々にお礼申し上げます。ありがとうございました。

## ローターアクト地区委員長としての 一年を振り返って



2005～2006年度  
地区ローターアクト委員会  
委員長 秋葉 吉秋

ローターアクトクラブは前途有為な18歳から30歳までの新世代で組織されています。ロータリーから見たアクト育成の意義は「人づくり」にあります。しかし、当地区では新クラブが約14年間創立されていない状況にあり、地区内ローターアクトクラブの実稼働も10クラブに及びません。困難であっても新クラブの設立こそが現況を大きく打開するための喫緊の課題と言えます。茂原RC、茂原東RC、茂原中央RCの3クラブ共同提唱により山中年度内の茂原ローターアクトクラブの創立を目指し、昨年の秋に大きなステップを踏み出しました。しかしながら、この1年は順調な歩を進めて来たとは言い難い物があります。有井年度(次年度)への最重要申し送り事項として、引き続き茂原3クラブと地区との連携を図り、白鳥年度における完結を期す所存です。皆様のご協力を今後ともお願い申し上げますと共に、これまでのご助力に御礼申し上げます。

## 一年を省みて



2005～2006年度  
地区ロータリー財団委員会  
委員長 中村 博巨

この一年、R財団委員会の一歩の悩みは次年度以降のDDFの激減の問題でした。R財団管理委員会は、2006-07年度よりDDFとWFの割合を50%、50%に変更いたしました。それだけでなく、ここ数十年にわたる会員の激減(約1,000名余)で、年々、当地区の年次寄付は減り、恒久基金も以前のように大口寄付を行って下さる方は少なくなりました。従って地区が使用できるDDFは大きく減少しております。因みに、2005-06年度のDDFは約35万ドル余、2006-07年度は約14万ドルあまりと、半減しております。その結果、当地区の目玉のプログラムであります国際親善奨学生の選考も、従来は約10名前後の学生を取ることが出来ましたが、本年度は4名しか選考することが出来ませんでした。管理委員会による毎年度変更、拡張される財団プログラムの影響は、地区プログラムの縮小を余儀なくしております。これはシェアー・システムの本来の趣旨に反すると危惧いたしております。地区補助金やマッチング・グラント等の地区又はクラブのプログラムを円滑に行う為には、全ての会員の皆様「財団の友」の会員になって頂き、少しでもDDFを増やして頂くことだと思います。今後とも財団へのご協力をお願いいたします。

## 一年を振り返って



2005～2006年度  
地区ロータリー財団委員会  
補助金小委員長 外立 徹

2003-04よりCAPから地区補助金と名称を変えて本格的に各クラブの社会奉仕活動に支援を始め3年が経過しました。クラブ間での温度差があるものの、地区補助金への認識が深まってきたようです。今年度も8クラブの申請があり、6クラブへ支援を致しました。これまでの実績内容を見ると、とても身近なプログラムに地区補助金が使われています。この補助金の原資は、ロータリアンが寄付された貴重な浄財であり、幅広く公平に支援する為、支援対象プログラムには、適・不適の基準がいろいろ設けられています。次年度は2万\$が予算化されています。計画されている社会奉仕活動が、資金不足で実施が懸念されているのであれば、ぜひ地区補助金をご活用され奉仕活動の実現にお役立て下さい。

## R財団学友と共にR活動を



2005～2006年度  
地区ロータリー財団奨学金  
小委員長 大倉 崇

日本は国際ロータリー加盟の諸国に比べ、R財団プログラムで人道的プログラムよりは教育的プログラムに力を入れております。奨学金は、今日の若い人々への投資で、有望な学生が明日の指導者になる、というロータリーの信念の表れである。当地区では応募者の中から、単に学業成績の良否、あるいは留学先の語学に堪能だから、という理由だけではなく、これに加え「ロータリーの親善使節」として優秀な資質を備えている候補者を選考し、育成することに重点を置いております。当地区の国際親善奨学生では2005年度は9名で、1人の辞退を除き8名は全員希望の留学先で勉強しております。2006年度も9名で秋の就学待機中であります。そして、2007年度は地区財団活動資金(DDF)の減少のため4名しか選抜できませんでしたが、これから1年間のオリエンテーションを経て、来年の秋に留学する予定であります。世界平和フェローでは国際関係及び紛争解決の分野における経験豊富な専門職業人で、当地区では2005年度、2006年度それぞれ1名を推薦したが不合格でした。2007年度も1人を推薦し、エバンストン本部から良い知らせがあるように期待しております。

当地区の教育的プログラムは1969年から始まり、R財団学友は288名に達し、彼らはロータリーにとって良き理解者で優れたロータリアンとして有望であります。各クラブは是非学友と連絡をとり、例会、卓話(体験談よりは専門分野)奉仕活動に参加するように呼び掛け、そして機会を伺いながら会員増強の一環としてクラブ入会を勧めて下さい。



## 世界平和フェローシップの活動



2005～2006年度  
ロータリーセンター連絡協議会  
地区委員 山崎 敬生

年度も終わり近くの5月27日、三鷹に在る国際キリスト教大学において第3回ロータリーセンター年次セミナーが開催され、当地区がホストした世界フェロー、ダニエルさんが卒業テーマ「平和と紛争の衝突空間としての靖国神社」を鋭い視点で発表し、直前 RI 理事を初めとする会場のロータリアン、学者、学生に深い感銘を与えた。

2002年、森島ガバナー年度より始まったこの新しいプログラム(世界平和奨学金)は当年度、(世界平和フェローシップ)と名称も変わり、5年の試験期間を待たずに恒久プログラムとし、RI財団はホストホリオと位置づけた。今も紛争が絶えない世界情勢の中、日々、無辜の民が殺傷されていく、国際平和を求めるロータリーが単に国際親善奨学金だけでなく、世界平和と紛争解決に絞ったこのプログラムを世に送り出したのも当然だろう。

プログラムの指導に際し、2002年度より皆様の寄付された浄財から(地区に戻された資金の中)毎年、2万5千ドルをこのプログラムの為、RI財団に寄付している。

第1期生から3期生まで、世界に点在するロータリーセンターから180名もの研究者が巣立ち、NGO、政府機関等で活躍している。まだ立場や肩書は充分ではないだろうが、将来世界平和の為に尽力する大きな力となっていくことは間違いない。

私達ロータリアンが播く種の平和の花が咲くことを信じている。

## 1年を振り返って



2005～2006年度  
地区米山記念奨学会委員会  
委員長 妻島 不三二

1年前委員長に推薦されお引受けさせて頂いていただきましたが、不勉強の私に勤まるかどうか不安でしたけれども、山中ガバナー始め平山理事、秋元カウンセラー、更に前委員長、委員のご指導とご協力をいただき1年間過ごすことができました。お礼を申し上げます。

10月の月間には米山梅吉記念館に一泊二日の探訪研修旅行を行い、温泉体験をしていただき、国籍、大学を問わず国際交流ができました。

2月には2006学年度の米山記念奨学生の選考試験を実施させていただきましたが、地区において指定する指定大学より47名が推薦(推薦枠)され、18名の新規奨学生の採用をいたしました。全員緊張し、真剣そのもので、中には自分の生年月日を間違える学生もいる程でした。優秀な学生ばかりで、選考委員も受験生の「おもしろい」がひしひしと感じられ、不採用になった学生には心よりお詫びする気持ちで選考させていただきました。

米山記念奨学生については、地区委員会にご連絡下されば、奨学生と共にクラブにお伺いし、勉学、研究の現況とロータリアンに対する感謝の気持ちをお話させていただきますと、更に、米山事業に対するご理解とご協力をいただけるものと思います。

奨学期間終了後は世界を舞台に各国、各方面で活躍していることをお知らせいたします。

## 1年を振り返って



2005～2006年度  
地区米山記念奨学会委員会  
学友担当 香取 信治

学友会といっても、会員の皆様にはあまりなじみがないのが現状だと思います。米山奨学生が期間終了した元奨学生を学友といいます。この学友と奨学生によ

って組織されている会のことを「米山学友会」といいます。現在、日本には25団体(30ロータリー地区)、海外には韓国、台湾に2団体の計27団体があり、これまでに1万2千人の優秀な奨学生を送り出しております。現在日本のロータリアンが理想とする米山奨学制度の意を理解した学友が多数世界を舞台に活躍していることはとても素晴らしいことと思います。1例を挙げますと、駐日韓国大使になった韓国の学友、日本国より叙勲を受けたスリランカの学友、台湾では学友出身者2人がガバナーになったこと等他にも多方面で活躍しています学友が多数おります。しかし、以上のように各分野で活躍しております学友が沢山いることはとても嬉しいことですが、私自身1年間を振り返り学友と繋がりを持ち良い関係を続けているクラブ・カウンセラーもあると思いますが、一般的に学友との接点がありませんかと思っております。今後この事に関してももう少し学友と地区委員会が密接なコミュニケーションを図り、よりよいネットワークを作ることにより少しでもよい方向に進むのではないかと考えております。

この件に関して努力が足りなかった事を反省し、次年度の担当者をお願いするつもりです。

## 一年間を振り返って



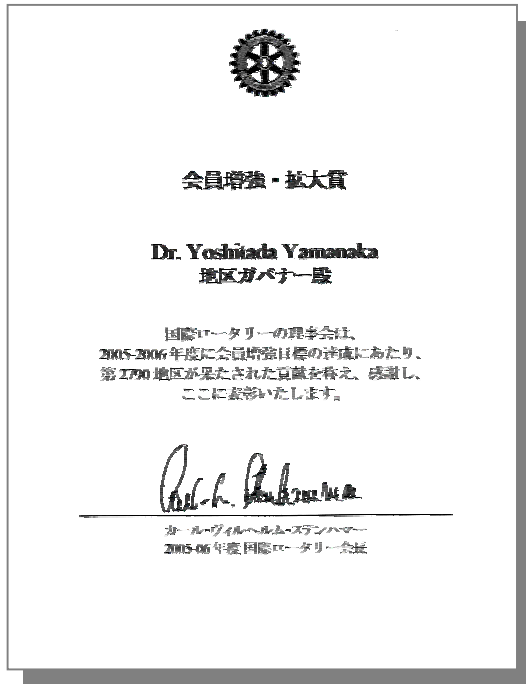
2005～2006年度  
ロータリーの友委員会  
地区委員 川島 秀文

ロータリーの友誌を地区の皆様にご覧いただくようにするのが、地区委員の仕事ですが、なかなかご指導できないうちに一年間が終わってしまいました。

私自身も今まではあまり読まなかったのですが、職務上、読むようになり、各地区やRIの活動の様子がよくわかり、最高のロータリアンの教科書です。特にスピーチや風紋はロータリアン以外の方にも読んでもらいたいと思うほどです。

友誌は読めば読むほど素晴らしさがよくわかりますので、皆様も是非、ご一読下さい。

また、地区委員をやらせていただいたおかげで、全国34地区委員の方々とは知り合いになれたこと、私自身の宝です。一年間ありがとうございました。



国際ロータリーより 会員増強・拡大賞を戴きました。

松戸ロータリークラブ(最多新入会員入会達成)  
館山ロータリークラブ(最高の退会防止率達成)  
佐原香取ロータリークラブ(最高の成長率達成)  
地区ガバナー(会員増強達成のための貢献)

2005 - 2006 年度

## 新世代のための活動記録



ロータリーは、青少年の育成に力を入れ、  
様々なプログラムを展開しております。

2005年7月31日~8月3日

RI100周年記念  
日台青年交流事業



R L A



2006年2月24日~26日  
RYLAセミナー

2005年12月3日

ロータリー3地区合同交流会  
(千葉・茨城・栃木)



2005年8月23日  
インターアクト年次大会  
(分野別体験・募金活動)

